

「秋桜 = コスモス で無くなるかも」

特に暑かった今夏の残暑は10月初旬にまで及びました。そのため、台風の被害も免れ、順調に生育していた稻が収穫直前になって害虫被害にあい、減収となってしまった農家も多いようです。

樹木もサクラの葉に害虫が発生し、葉が食い荒らされてほとんど無くなり、時季を待たずして落葉状態になってしまいました。通年であればこのまま春を待つのが、日中の気温が高く春先の季候に近い状態が続いたため、季節外れの開花となつた樹をあちこちで見かけました。昨今、温暖化の問題が折に触れ取り上げられますが、植物の反応が、その実状を顕著に表しているように思います。



~ご報告~

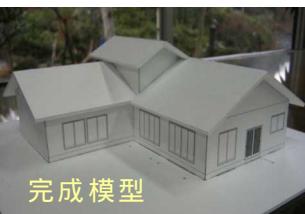


『第22回豊の国木造建築賞』の表彰式が、11月2日（金）に大分市で行われ、川野組が設計・施工した丸長旅館（長湯）が最優秀賞に輝きました。昨年は、この賞始まって以来初という、最優秀賞（柚須医院）と優秀賞（羅夢歩）の同時受賞でしたが、今年もまた前例のない、最優秀賞の連続受賞となりました。選考委員会で「新築の旅館なのに、不思議と和む。」と評された丸長旅館です。みなさんも一度足を運んでみては。



一建落着 H邸（緒方）

若夫婦が帰省し、手狭になった母屋を2世帯住宅に増築しました。



家族みんなの笑い声が聞こえてきそうでしょう。



「あんだけ暑かった夏の夜もエアコンなしで過ごせた」と、お施主さん。

発行人 川野和男
編集 川野組内
家造り匠の会

☎ 0974-62-2416
✉ tkk22@theia.ocn.ne.jp
🌐 http://www6.ocn.ne.jp/~k-kawano



『大雪』

今年は秋が短かったような気がする

スキの穂がだんだん白くなつて

山々は少しずつ装いを変え 色合いを深めていく
はずだったのに

厳しい残暑からいきなり 寒くなりましたねえ では
季節の移り変わりを楽しむことも 憂しい

雪が激しく降り始めるころ といわれる大雪は 7日
冷たさは増すばかりだが 食べ物はうまくなる
自然の在りようにおののきながらも 感謝する

墨絵に近くなる景色の中で

朱の点を打つ 藤椿の確かさを見れば
わざとらしい意匠など うたかたでしかない



旬の版画

寒い間ずっと

そこだけは濃緑の舞台で
いろんな椿が咲き続けます

山にも庭にも道端にも
もともと日本の花だそうです

ちょっと樹になるお話 特集 森邸(飛田川)

今回は、この夏、飛田川に完成した森邸の特集です。



高級感溢れる本格日本家屋。

内部にも高価な部材がふんだんに使われています。

「この造りなら、さぞや・・・。」と、お思いでしょうが、それは間違い。

なぜなら、この家に使われている木材のほとんどは、施主自らが

無理をする事なく、長年掛けてこつこつと原木を集め、製材し、

丁寧に保存して置いたものだからです。

まずは、その樹々特有の木目の美しさをじっくりとご覧下さい。



いかがですか？身の回りにある素材を使い、
その持ち味を無駄なく活かした家造り。

これもアースコンシャスの、一つの形と言えるのでは。



屋根から見下ろせば、昨年、玉来旧道に出来た荻へ通じる交差点。

これを右手に進めば、今年完成した国道57号との交差点です。

荻地区の皆さんのが待望していた国道への取り付け道路が完成したのです。

「済みません。白水の滝に行きたいんですが、荻へはどう行けば良いんでしょうか？」と幾度となく尋ねられた事があります。

これからは、もう大丈夫。

知っ得？納得！ こんな所にこんな物

上の写真の岩は、穴井迫鶴原にある柱立神社に在り
『鶴原のメンヒル』と呼ばれ、祀られている巨石です。

古来、日本人は、巨大な木や岩には、神が宿ると考
え、信仰の対象としていました。

岩や石に対するのを「巨石信仰」と言い、立石や立
神などの地名もこれに関連するものです。

柱立神社の巨石は、人工ではなく阿蘇溶岩の自然石
ですが、土地の人々は、古くから、陽石（男根
の象徴）として深く信仰していたようです。

『鶴原のメンヒル』の名称は、有名な考古学者
鳥居龍蔵博士によって大正時代に命名されたと
言うことです。

～柱立神社 『鶴原のメンヒル』案内看板より～

